

政策評価シート（第5次二宮町総合計画・後期基本計画）

まちづくりの方向性	交通環境と防災対策の向上
背景と現状	<p>便利でコンパクトな町という特性を活かして、町民にとって身近で利用しやすい公共施設の充実と、駅前広場や主要な道路の改良、公共交通の確保等により、交通環境の充実を図ります。</p> <p>また、喫緊の課題である大震災等の災害に備えるとともに、家庭、地域で町民同士の協力と支え合いによる減災文化が根付くまちづくりを進めます。</p>

※ 評価 「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」  
 ※ 方向性 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

重点的方針	評価					
	R 1		R 2		R 3	
	評価	方向性	評価	方向性	評価	方向性
3-1 新庁舎整備による安全・安心な町の拠点づくり	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
3-2 自然災害に対する防災・減災対策の充実	B	継続推進	B	継続推進	B	継続推進
3-3 都市基盤の強化と町民の交通環境の向上	A	継続推進	B	継続推進	B	継続推進

※ 評価 「順調である」「概ね順調である」「一部順調ではない」「順調ではない」

内部評価（評価・理由等）	
概ね順調である	<p>・3-1の施策においては、新庁舎・駅周辺公共施設再編計画を作成するとともに、未耐震の地域集会施設について耐震診断を実施し耐震化を図った。公共施設の再配置に関する施策は、まちづくりの根幹となるものであり、今後も町民理解を得て進める努力が必要である。</p> <p>・3-2の施策においては、防災・減災面で自助、共助、公助のバランスの取れた防災力の強化充実を図ることができた。また、消防業務においても、救急救助活動業務に注力して業務を達成し、かつ、新たに関係機関と連携し、高齢者の火災予防活動を推進した。</p> <p>・3-3の施策においては、町民の生活に直結する内容であり、日々、多くの声を頂く機会があるため、点検やパトロール等による計画的な対応等をより積極的に推進していくとともに、インフラの予防保全と、新たな交通施策の検討を進める必要がある。</p> <p>・政策全体として、各施策ともに一定の成果が得られているため、推進は概ね順調である。</p>
外部評価（評価・主な意見等）	
概ね順調である	<p>●まちづくりの第一歩として新庁舎整備による行政機能の集約化が急がれる。整備にあたっては、財源確保のため、民間企業との共同利用などによる建設・維持コストの低減策や、災害・有事の際などに適切な対応ができるように機能強化を行うこと。また、町民が利用するにあたって不便とならないよう、交通ハブを考慮したうえで平坦な場所への移転を検討するなど、庁舎整備の必要性とメリットを発信し町民の理解を得ながら着実に進めて行く必要がある。</p> <p>●将来発生が予想されている大地震などの自然災害の対応においては、町民への日頃からの防災意識の啓発と実際の防災訓練による基本的な防災動作の取得が必要である。しかしながら、防災訓練を行っても必ず多くの町民が参加するわけではないことから、中学校における防災訓練のカリキュラム化など、町としてもどうすれば効果的に啓発できるか更に検討していくこと。</p> <p>●インフラの維持管理は重要であり、特に、小中学校通学路の安全性は特に重点的に注視する必要がある。</p>

町の最終方針（今後の方向性）

継続推進	<p>基本構想「交通環境と防災対策の向上」については、外部評価においてその取り組みを早急に進める必要があると指摘された施策もあるため、これまでの取り組みをベースに次のとおり推進する。</p> <p>重点的方針3-1においては、新庁舎整備や公共施設の再編を、防災面だけでなく行政機能の効率化や福祉的視点も含め、適切に広報紙等で周知しつつ、取り組みを早急に進める。</p> <p>重点的方針3-2においては、地域コミュニティの衰退から共助の機能を危惧する声があることから、若い世代を巻き込んだ防災意識の向上と地域の活性化を同時並行的に進める。</p> <p>重点的方針3-3においては、災害時を見据えたインフラ管理を適切に進めるとともに、今後の更なる高齢化を見据え、福祉的視点も踏まえた新たな交通施策を検討していく。</p>
------	--